

RECRUIT INFO



福井県職員ク

協働
仕掛け

創意的上

って現状打



福井県庁 保健師採用募集

Fukui Prefectural Government

目の前の人を救う

から、

73万人の健康を守る

へ。

福井県庁保健師の役割

多くの人の健康を守る「施策」をつくる

幸せな人生を送るために、健康であることはとても大切な要素。しかし、心身に悩みを抱えることは誰にでもあります。福井県庁の保健師は、福井県全体の人々の健康を守っていく“施策”や制度”を地域に根づかせていく仕事です。そのために、何か起こってから支援はもちろんですが、何か起こる前に予防したり心配ごとの相談に乗ったり、今後の生活をよりよくすることに寄り添ったり.....。

必要なのは、目の前の人に寄り添う「心」。そして、“支援”で終わらせず、“仕組み”として繋ぐ視点。一人の切実な困りごとに向き合い、それを地域全体の共通の健康課題として捉え、予算を組み、事業を立ち上げる。私たちは、現場の手触り感を持ちながら、社会の仕組みを自らの手でより良くしていける力を求めています。



福井県庁保健師の「激る」シゴトを一部ご紹介！



01 もっと多くの人の健康を守ることができる

「目の前の患者さんへの対応だけでなく、もっと多くの人が健康に暮らせる支援をしたい」そう考え、看護師を経てキャリアチェンジした保健師が、福井県庁には多く在籍します。実際に福井県庁の保健師は、一つの分野にとどまらず、人生のさまざまな局面を支えてきた例があります。

例えば！

- ・精神疾患のある方に対し関係機関と連携した緊急対応
- ・依存症を持つ方へ時間をかけた対話を重ねながら回復に向けた伴走
- ・妊娠期から子育て期の母子への切れ目のない支援
- ・難病患者の方やその家族へ、療養生活の不安に寄り添い制度や事業を見直し
- ・感染症、パンデミック時の患者対応、疫学調査、感染拡大防止策を地域全体に啓発
- ・災害時に被災地へ赴き、平時とは異なる環境で住民の健康を守る保健活動

特に難病、精神保健など、心身の悩みに幅広く向き合うのは福井県庁ならではの。また、地域の健康課題に対し市町の保健師と連携した取り組みも行っています。県のみならず市町の仲間とともに、個人への支援から集団・地域へのアプローチまで一貫して担います。



02 現場の「気づき」から、新しい施策を企画するクリエイティブな仕事

私たちは、既存の制度をただ運用するだけではありません。個別の困難事例を「大変な仕事」で終わらせず、「県全体の共通課題」として捉え直します。そこから、調査や研修、新たな手引きを自ら考案し、全体の問題解決に向けて真っ白なキャンバスに絵を描くような面白さがあります。

03 こんなところにも保健師が？現場は無限大。

あなたの声が必要とされる現場は想像以上に多い。保健・医療・福祉の枠を超え、さまざまな業種・職種の人と関わりながら“健康を伝える側”として社会に働きかける機会があります。

例えば！

- ・テレビ・ラジオに出演し、メンタルヘルスや生活習慣の見直し等に関する普及啓発
- ・職員の心身の健康に目を向けた健康管理
- ・地域の様々な企業と連携した健康づくり推進体制の構築
- ・県内の各種団体や機関の会議の場で、職員のギャンブル依存症防止をテーマとした講演
- ・保育園や高齢者施設での感染症対策に関する健康教育



一見保健師とは結びつきにくい場所にも出向き、正しい知識を分かりやすく伝える啓発活動を行っています。県民に直接メッセージを届ける広報的な動きも。看護師から転職したスタッフも、前職時代には想像していなかった出会いを通じて、「直接会わない誰かの健康にも影響を与えられる」ことに大きなやりがいを感じているといいます。

04 法律や制度と人を繋ぐ「仕組み」を創る

「やりたい支援」を現場の思いで終わらせない。法律と制度、そして予算を動かして、自ら実現できるのも福井県庁の保健師の大きな魅力。補助金の管理や効果検証を行い、「なぜ必要か」「どうすれば県民の役に立つか」を言葉にして予算要求し、新たな事業として形にしています。

ある保健師は、家族の介護負担が限界に近づいているケースに向き合う中で、レスパイト支援が「入院」に限定されていることで、かえって利用しづらくなっている現実に気づきました。そこで、自ら患者や家族の声を聞き取り、訪問看護事業所への調査を実施。

「訪問看護でも使えるレスパイト支援」という新たな施策を企画・提案。予算の仕組みを整理し、必要性和効果を言語化して予算要求を行い、事業として形にしました。地域の健康課題に応じた体制づくりや関係機関との調整まで担うという経験をした人もいます。

誰か一人が悩んでいるということは、他にも同じ悩みを抱える人がいるかもしれないということ。個別の事例から、法律や制度の枠を現場視点で組み替え、予算を動かして県民全体に届く仕組みを作っています。

最後に

あなたの気づきを、73万人の健康を守る制度に変えられる

「目の前の人を救いたい」という原体験を、制度という仕組みに変え、地域全体に届けるのが保健師の仕事。さらに、その幅が広いことが福井県庁保健師の強みです。当事者も、支える側も、一人では向き合いきれないことに、県庁というチームの中でなら心置きなく向き合い続けられる。誰かの想いに心を寄せ、自らカタチにしたいという方、福井県庁でお待ちしています。



働く環境・待遇・福利厚生

給与

初任給

257,100円

令和7年4月現在。大学を卒業した保健師免許既取得者で、医療職給料表(三)適用の場合。なお、職歴等のある方については、上記初任給の額に一定の基準で算出された額が加算される場合があります。このほか、職員の家族状況、勤務状況等により次の各種手当が支給されます。(扶養手当、住居手当、通勤手当、超過勤務手当、期末・勤勉手当等)

各種休暇制度（一例）

年次有給休暇をはじめ、様々なシーンに応じた休暇制度があります。

【例】年次有給休暇（20日）夏季休暇（5日以内）
結婚休暇（7日以内）等

[主な子育て支援制度]

- 産前産後休暇
- 育児参加休暇
- 育児休業
- 家族看護休暇
- 育児短時間勤務
- 出産時育児休業（産後パパ育休）
- 育児部分休業
- 出生サポート休暇（不妊治療休暇）
- 出産補助休暇

キャリアパス

新採用職員は本庁のほか、県内全域の出先機関（健康福祉センター等）に配属されます。

入庁後10年程度は様々な職場を経験できるように、本庁や出先を原則2～3年程度、中堅職員は5年程度のサイクルで異動します。また、毎年異動前に希望を伝える機会も設けられています。

[主な勤務地]

- 福井県庁（本庁）
- 健康福祉センター（保健所）
- 児童・女性相談所
- 警察本部
- 障がい福祉・精神保健相談所（精神保健福祉センター）等

勤務時間等

- 月曜日～金曜日 8:30～17:15
- 完全週休2日制

※交代制により夜間や土・日曜日勤務を行う職場もあります。
※早出遅出勤務、テレワークも可能です。
※フレックスタイム制度の活用により、週休3日等柔軟な働き方も選択できます。

男性育休の取得促進

福井県では、男性、女性関係なく皆で家事・育児を楽しむライフスタイルを推進しています。

福井県職員の育児休業取得率（令和6年度）

男性 100% 女性 100%

職員のスキルアップ・サポート制度（一例）

福井県では、次のような研修を設け、キャリア形成の支援を行っています。

【例】新採用職員研修・階層別研修、能力開発研修（選択研修）
トレーナー制度・メンター制度、自己啓発活動支援

また、保健師独自の研修として、「福井県保健師人材育成ガイドライン」に基づき、新任期教育を実施しています。職場内や職場外での研修、ジョブローテーションや自己啓発等により、行政保健師として成長のできる体制を整えています。

	主事 (1～3年)	主事 (4～10年)	主査・企画主査 (11～20年)	主任 (21年～)	本庁GL 健康福祉センター課長 管理職 統括保健師
OJT (職場内研修)	プリセプターから指導を受ける	プリセプターとして指導を行う		プリセプターを支援する	
	事例検討 保健事業管理(PDCA)、事業の企画・実施、マニュアル作成、計画策定等				
Off-JT (職場外研修)	プリセプター制度を導入しています。先輩保健師がプリセプターとして指導につき、プリセプター保健師から、マンツーマンで日常的な指導を受けられます。また、個別に保健師人材育成計画を作成し、能力の獲得状況を評価しながら、職場全体で、新人保健師の育成に取り組んでいます。				
自己啓発・自己研鑽	業務別派遣研修や新任期保健師研修、人事課が開催する県職員研修など、キャリアレベルおよび目的に応じた研修に参加し、行政保健師としての知識や技術を習得できます。				
	学会参加や研究発表、職能団体への参加や大学院進学等、保健師としての自覚を持ち、自己の専門的能力を向上させるために、主体的に学べる環境です。				

第1次試験

- ①教養試験 ②適性検査
- ③専門試験

第2次試験

口述試験

数字で見る「福井県庁保健師」

※令和7年度

人数	平均年齢	男女比	福井大好き度
約80人	35.8歳	男性 女性 5 : 95	100%

お問い合わせ先

福井県
健康福祉部 地域福祉課

TEL.0776-20-0326

応募時期等は、福井県庁ホームページ（キーワード検索「選考採用試験」）にてご確認ください。